

第4回新市建設計画策定小委員会

議 事 録

第4回新市将来構想策定小委員会会議録

1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成16年6月14日(月) 午後4時30分
- ・場 所 長岡市役所第3委員会室

2 会議出席委員の氏名

豊口 協	二澤 和夫	大地 正幸	佐々木保男
今泉 實	伊佐 文也	米持 昭次	小方 保
坂牧宇一郎	高野 徳義	五十嵐 徹	野田 幹男
鈴木 隆三	鯉江 康正	小疇 弘一	阿部 誠一

以上 16名

(欠席委員の氏名)

熊倉 幸男 原田 秀樹

以上 2名

3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

長岡地域合併協議会新市建設計画策定小委員会

事務局（北谷）

皆様、本日はお忙しいところお集まりくださりまして、まことにありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより長岡地域合併協議会第4回新市建設計画策定小委員会を開催させていただきます。

なお、本日の小委員会は熊倉委員と原田委員が都合によりご欠席となっておりますが、半数以上のご出席をいただいておりますので、小委員会規程により会議が成立していることをご報告いたします。

次に、本日の議事に係る資料のご確認をいただきたいと思います。事前に会議次第、資料1を配付しておりますが、資料の方は皆様よろしいでしょうか。なお、資料1の序章と1章につきましては、前回のご意見をもとに整理をかけておりますので、本日は第3章からご検討いただきたく資料を作成しておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。なお、恐れ入りますが、ご発言の際はお近くのマイクを使われますようお願いいたします。

それでは、議題に入らせていただきます。この後の議事進行につきましては、豊口委員長よりお願いいたします。

委員長（豊口 協）

はい、それでは議事を進行させていただきます。最初に事務局から説明がありましたが、前回から引き続き第3章の新市建設計画策定の概要ですが、これはたくさんのご意見をいただきました。それを担当者レベルで検討を重ねまして、データの修正ですとか、経過を加えた、字句の修正等いろいろやってきましたものがありますので、事務局から説明していただきまして、ご審議いただくと。次に第4章以降の新市の施策概要となっていくしますので、さらに具体的に提案されていますので、その内容について、ご審議いただく。資料が手元に既に配布されていますので、それをベースにして審議をしていただきたいと思いますが、最初に今申し上げましたように、第3章の新市建設計画策定についての内容等改めて説明をいただいて進めたいと思います。戦略方針については、既に前回いろいろご意見をいただいておりますが、そのほかに、またもし何かご意見がありましたらいただいてまいりたいと、こう考えております。そういうことで進めたいと思いますが、よろしゅうございますか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、第3章の資料は、本日各委員会から出された意見を踏まえた上で、事務局でまとめたもので、さらに磨きをかけていきたいと思っております。

それでは、お手元にお配りしております第4章以降につきまして、事務局の方から説明をお願いした

と思いますが、この第4章に関しましては戦略事業とリーディングプロジェクトというものが提案されております。戦略事業は、地域経営の視点とブランディングの視点に基づきまして、戦略方針に即した具体的な事業が設定されているわけです。特にリーディングプロジェクトにつきましては、合併後にまず何をすべきかということを確認にしたいということでもあります。少なくとも確実な成功を積み重ねることで、達成感を高めながら新市の未来に向けたまちづくりを行うということが一つのキーワードでありまして、新ながおかの地域らしさと価値を一步一步高めていくことがこの基本的な方針になります。基本的には、新市をつくり上げていくオーナーとして、不足している事業があるかないか、そういったことも含めて我々は議論を重ねていきたいと、こういうことでございます。では、そういうことでひとつよろしく申し上げます。

事務局（竹見）

それでは、事務局からご説明をいたします。合併協議会事務局の竹見と申します。よろしくお願ひいたします。失礼ながら、座って説明をいたします。

それでは、お手元の資料1、ながおか地域新市建設計画（素案）をごらんください。おめくりいただきますと、第3章の36ページから戦略方針を含めまして、42ページまでは前回ご説明させていただいたとおりでございます。本日は、43ページから資料をまとめておりますので、よろしくお願ひいたします。

まず、43ページにつきましては、建設計画登載事業の考え方ということで、戦略的的事业、そして生活基盤整備事業、それから合併に伴い必要となる事業ということで、考え方をまとめています。下の図につきましては、新市の建設根幹事業として、大きく三つに区分されているということで、第4章以降、第4章が戦略的的事业、それから第5章がナショナルミニマム事業、第6章が合併に伴い必要となる事業として、それぞれ右の方に登載方法と登載ページが記載されております。

それでは、44ページに移っていただきますと、第4章の新市建設の施策1、戦略事業～地域らしさ価値の確立ということで、今委員長からご説明ありましたように、戦略事業とは新市将来構想の実現に向けた事業であり、将来構想の地域らしさ価値を高めるために、市民と行政が一体となって今後10年の間に取り組んでいくべき事業でございます。既に述べました建設計画策定方針のいわゆる地域経営の視点、ブランディングの視点に基づき戦略方針に即した具体的事業を設定しているということで、44ページの下段の方に表が書いてございます。こちらについては、地域らしさ価値の「独創企業が生まれ育つ都市」に向けた戦略事業として、個々の事業を表にまとめております。

45ページをごらんください。こちらは、地域らしさ価値の「元気に満ちた米産地」に向けた10年間で取り組んでいくべき事業でございます。重点実現項目ごとに同様にまとめております。

それから、46ページが地域らしさ価値の「世代がつながる安住都市」に向けた戦略事業ということで、こちら重点実現項目ごとにそれぞれ個別の事業をまとめております。

それから、47ページです。こちらが地域らしさ価値の「世界をつなぐ和らぎ交流都市」に向けた戦略事業ということで、同様に重点実現項目ごとに整理をしております。

それから、48ページからは、リーディングプロジェクトということです。こちらは、戦略事業の中から合併後3年程度までに着手、実現でき、新市民の行政が新市を実感し、アピールできる事業です。まずは合併して、すべきことを明確にすると、そして成果を出して確実に小さなものでも階段を一步一步上がっていく、そういった事業でございます。下の図の方は、リーディングプロジェクトの位置づけを書いてございます。右の方をごらんいただきますと、戦略事業、それからリーディングプロジェクト、そして生活基盤整備事業、合併に伴う必要となる事業という形で書いてございますけれども、こちらにつきましては三つの事業区分にそれぞれの重要性の序列はないです。特に戦略が優先されるとか、そういったことはなくて、これはすべて新市にとって根幹となる重要な事業ということで、お考えいただければと思います。

49ページをごらんください。49ページ以降は、地域らしさ価値、戦略方針ごとにリーディングプロジェクトを具体的な事業としてまとめております。前回の説明では、施策のポイントという形でまとめましたけれども、その施策のポイントに基づきまして事業をそれぞれ整理しております。個別の事業につきましては、後でご説明をいたします。それが55ページまで続きます。

それから、第5章が新市建設計画の施策、いわゆる生活基盤、ナショナルミニマム事業としてまとめております。第5章は、提案事業の中からいわゆる安心感の形成を図る事業としてまとめております。ここは、地域らしさ価値を高めるためには、まず住む人のいわゆる安心感が必要であるということから、まち全体の安定感を保つための基礎となる事業と言えます。ですので、位置づけとしても戦略事業、いわゆる合併に伴い必要となる事業と同様、大切なものでございます。

それから、第6章は、58ページです。こちらは、新市建設の施策3と合併に伴い必要となる事業ということで、いわゆる一体感の形成を図るものです。各市町村でいろいろ情報ネットワークなど異なる方式で運用されているものがございましてけれども、これらを合併に伴って統合したりして一体的に活動ができるようにするという、そういった事業でございます。これが58ページでまとめております。

では、個々の事業でちょっとご説明をいたしますので、リーディングプロジェクト、49ページの方にお戻りください。ちょっと時間の関係もございまして、すべての事業をご説明することは省略させていただきますけれども、主なものをご説明をいたします。前回の説明と少しダブる部分もございましてけれども、よろしく願いいたします。

まず、49ページが「独創企業が生まれ育つ都市」に関するリーディングプロジェクトということです。まず、重点実現項目は、新ながおかが誇る技と人をネットワークする匠の国を創り上げると、次に戦略方針として、行政が関連団体とのコーディネート役を担い、技術、人材等のネットワークを構築する。リーディングプロジェクトとしては、一番右の上でございますように地域産業ブランド力強化事業ということで、いわゆる地域資源ブランド化に向けての調査研究、こちらでは具体的には錦鯉産業育成事業の推進という形で挙げております。それから、新ながおか産業情報発信センター等整備への展開ということでもまとめております。それから、ジョイントベンチャーネットワーク形成促進事業ということで、

こちらは長岡の企業が全国や世界に通用するために、地域が一体となってサポートする体制をつくり上げるということで、いわゆるばらばらに今ホームページとか立ち上げていますけれども、それを一つにした総合ポータルサイトを設けるとか、それから交流の場を創設するとか、そういうことでまとめております。

それから、次の新しいビジネスモデルでmade in NAGAOKAの魅力を世界に発信するということでございますけれども、こちらの戦略方針ではビジネスモデル開発を促進するための行政の支援機能の発揮と、産学連携などの体制整備を図るということでございますけれども、ますます経済がグローバル化している中では、いわゆる新産業の創出、育成が非常にこれから重要になってくるということで、真ん中に書いてございますように、いわゆる産学連携強化事業として、大学、研究機関などからの技術移転を促進したり、いわゆるインターンシップの積極的な展開を図っていくというものでございます。

それから、価値創造型産業都市NAGAOKAとしてプロモーション活動の推進を図るところでは、いわゆる新エネルギー・クリーンエネルギー導入を促進していくということで、いわゆるクリーンエネルギー、天然ガスなどの自動車導入促進とか補助制度の創設を図っていくべきだということです。

それから、50ページをごらんください。上から、市民チャレンジャーの成功と雇用を支える新たな起業促進の風をおこすということで、戦略方針としては、ベンチャー企業やNPOなどを含む新たな雇用を創出する起業家への支援強化を促進するという形で、上から、新たな手法による中小企業融資制度事業として、いわゆる将来性や技術力はあるのに、なかなか金融機関から借入れが困難な企業があるということなので、そういった企業に対して信用力や償還期間に応じた柔軟な融資制度を新たに創設すべきだということです。

それから、その下にありますように、市民起業家創出支援事業として、なかなか地域が抱える課題、いわゆる行政も民間もなかなか参入できないと、そういったニッチな市場に対して、それをビジネスとして成功するような形で取り組んでいくべきだということです。

それから、未来のエジソンを生む人材教育・人材育成の推進というところでは、自分探しを模索できる機会を提供し、開拓者精神と自立心の醸成を図る人材教育、いわゆるアントレプレナー教育などの仕組みづくりを行うということです。こちらは、上から下、2番目に書いてございますように、いわゆるアントレプレナー人材教育カリキュラムの研究開発事業ということで、産業・教育分野を中心とした民間企業との連携による起業家育成の研究開発を図っていくべきだと、そういった形でまとめております。

その下の戦略方針ですけれども、いわゆる再学習機会の創出など、どの年代層からでも産業革新に貢献できる人材を育成する社会システムを構築すると、代表的なものとしましては、真ん中にありますように伝統の技・人育成事業として、新ながおか市にはいわゆる杜氏や、あるいは鋸鍛冶職人等を目指す人がいたら、そういった方にいわゆる地元企業の受け入れ態勢を支援していったらどうかということで、伝統産業への研修者の受け入れ態勢を整備していくべきだという形でまとめています。それから、その

下にございますように、学歴を超えた社会教育システム構築事業も挑戦していったらどうかということでまとめています。

51ページをごらんください。こちらは、元気に満ちた米産地に関するリーディングプロジェクトです。重点実現項目としては、「新ながおか元気印ブランド」の創造による「食の付加価値」の確立ということで、戦略方針として、元気印は健康とおいしさという長岡農産物のブランド力を支える農家、生産組織の意識喚起や土づくり活動などの推進を図るということで、特に世界的に求められているわけなのでございますけども、いわゆる食に対する安全、安心というものをさらに高めていこうというもので、食の安全・安心・環境保全推進事業として、栽培履歴の促進や、土壌あるいは水質診断、そして土づくりの促進拡大を図っていくものでございます。

それから、その下に戦略方針として、長岡特産農産物の「元気印＝健康とおいしさ」というブランド力の強化活動を行うというところでは、農産物ブランド力強化支援事業ということで、いわゆるブランド化への意識醸成とビジョン、それから行動プランの策定をしていくべきだということでまとめています。

それから、重点実現項目のおいしさと安全・健康をキーワードとする「新ながおか料理」の発信というところでは、その戦略方針では、地元食材を活用した長岡でしか味わえない新しい郷土料理や健康メニュー、特産品の開発を行うということでは、新ながおかメニュー・もてなしのプログラムづくり事業ということで、新メニュー開発あるいは駅弁を開発していったらどうかとか、それから女性を生かしたアグリビジネス創出支援事業ということで、特産品の開発に女性の感性を生かして、そういったビジネス創出に対して支援していったらどうかということです。

それから、下の地産地消などを体系化し、安全・健康食材生産地域としての“ながおか”を発信するということでは、まごころを感じる食材生産地形成事業ということで、特に学校給食への地元食材を導入促進して地産地消を図り、なおかつ子供の健康づくりを図っていくというものでございます。

それから、重点実現項目の蛸が舞い、人の豊かな営みが展開する「食」「農」のユートピアを生み出す、その戦略方針としましては、潜在的な地域資源の宝庫である農村や中山間地域に対する意識の醸成と、農産物生産の人材ネットワーク形成を図るというところでは、リーディングとしましては、いわゆる地域における徹底した地域資源分析事業、あるいは休耕田・荒廃地の活用促進事業ということで、特に中山間地域等との交流の中で中山間地域の農地の保全を図っていくということです。

それから、下にございますように、生物資源循環促進事業ということで、かなりの提案がございまして、生ごみとか、それから堆肥プラント等のものを整備して市民活動と一体となって遺物資源を循環していこうという事業でございます。

それから、戦略方針の大都市圏からの来訪者受け入れ体制を整備し、来訪者を含めた地域全体で進める環境・景観保全活動の仕組みづくりを行うという戦略方針に対しましては、里山再生による環境・景観保全活動の仕組みづくり事業として、交流活動を通じた里山の多面的な維持や管理や整備を行って

きましょうという事業でございます。

それから、52ページです。こちらは、地域らしさ価値の、世代がつながる安住都市に関するリーディングプロジェクトをまとめています。「生きる楽しみ」「育つ喜び」が実感できる生活環境の創出の
ところの戦略方針の市民の声や思いを集める仕組みや地域社会などの情報収集・情報交換の仕組みを確立する
というところでは、いわゆる市民マーケティング事業、それから前回ちょっと誤解を招く表現で申しわけありませんでしたけども、今回市議会情報発信促進事業という形に変えております。

それから、次の戦略方針で、市民と行政の協働運営によるコミュニティの創出・育成を図るところでは、真ん中にありますように特に合併したら非常にコミュニティが大事であるというワーキングのメンバーからの意見が強うございました。そこで、市民・行政協働運営によるコミュニティの育成・強化事業として、地域コミュニティ拠点づくり、それからコミュニティセンター整備事業の展開などもリーディングとして行っていくべきだということです。

それから、「元気に老いる」熟年力を活かしたまちづくりの推進です。戦略方針として、コミュニティスポーツや介護予防の推進など、元気に老いるために社会人が健康づくりをしやすい環境を整備する
というところで、リーディングとしましては、健康づくり強化・推進事業という形で、屋内多目的コミュニティスポーツ施設整備事業あるいは健康づくり、地域支え合い拠点整備事業の展開という形で、市民と行政が一体となって健康づくりをしていくべきだということです。

それから、戦略方針の熟年層からの職業意識形成や熟年の経験を生かした活動場所づくりなどによる高齢者ライフの活性化を図るところでは、熟年力活用伝統文化継承システム構築事業ということで、定年後の熟年力を生かした、いわゆる伝統文化とか伝統技術を継承する、そういったシステムづくりをしていくべきだということです。

53ページをごらんください。こちら上から地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出ということで、戦略方針は、小・中学生の才能を地域で伸ばす仕組みづくりと活動を強化するということですが、青少年体験型学習推進事業として、いわゆる青少年の科学体験や自然体験を通じて豊かな感性をはぐくんでいこうというものでございます。

それから、戦略方針として、若年層の豊かな発想を社会に反映させる仕組みづくりを行うところでは、若年層の社会参加促進事業ということで、若年層から自由な発想、創造力を生かして駅周辺の市街地のにぎわいを創出していただくというものです。

それから、戦略方針の伝統文化を継承・発信し、未来人を育てる文教都市づくりを推進するところでは、歴史・文化の発掘・保存・発信システム構築事業ということで、地域に散在する情報資料収集をデジタル化して、それを子供たちに伝えていこうというものです。それとか図書館ネットワークシステム構築事業あるいは電子地図情報システム構築事業というものをリーディングとして挙げております。

それから、重点実現項目の「子育て・教育」の分野で、日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵ブ

ログラム」の開発・推進、それから戦略方針としましては、米百俵の精神に基づく地元住民による地域学校教育プログラムの開発と実践を行うというところでは、コミュニケーションを重視した地域学校教育プログラムメニュー開発事業という形で、教師、地域住民、子供から成る大人と子供のコミュニケーション教育プログラムの開発をしていくものです。

それから、重点実現項目の「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」の開発・推進ということで、戦略方針は、安全・安心な子育てを追求する環境づくりを行うというところでは、こちらは、子育て支援機能強化事業、それから子どもの体を丈夫にする食生活向上事業、それから通学路の安全性向上事業という形で、リーディングをまとめております。

それから、54ページをごらんください。こちらは地域らしさ価値の「世界をつなぐ和らぎ交流都市」に関するリーディングプロジェクトです。まず、重点実現項目の地域資源を活用した新ながおかコンベンション・シティの創設と、戦略方針が新市の伝統や地域資源を活用した特色あるふれあい交流活動を追求するというところでは、地域資源を活用したふれあい交流促進事業ということでまとめています。特に地域の中にいろんな資源があるわけがございますけれども、それを生かした形で、いわゆるへんなかツーリズム拠点整備事業の展開、それから闘牛場及び周辺環境整備事業の展開、重文・長谷川邸越路歴史館整備事業の展開を市民と行政が一体となった活動を行って伸ばしていこうというものです。

それから、重点実現項目の地域資源を活用した新ながおかコンベンション・シティの創設の戦略方針で、民間活力やさまざまな人材を活かしたコンベンションの仕組みを強化するというところで、コンベンションリサーチ・拠点整備事業という形でまとめています。それで、こちらのコンベンションにつきましては、地域がコンベンションのノウハウをどんどんしていくべきだろうということで、こういったリサーチを行ってコンベンション拠点整備事業の展開を図っていくというものです。

それから、重点実現項目のすべての市民が「新ながおか親善大使」というところで、戦略方針としましては、住民の地域に対する愛着・意識形成と、それに基づく市民レベルの交流の活性化を促進するというところです。上から、新ながおか魅力発見イベントの開催事業、あるいは身近な信濃川としてのイメージづくり事業、それから市民交流ネットワーク強化事業というところです。それから、国際交流市民会議事業という形でまとめています。

それから、55ページをごらんください。戦略方針が青少年活動を通じ“世界”へ“NAGAOKA”を発信するというところです。子ども親善大使育成事業です。環日本海、東南アジアこども会議の開催ということで、実際に児童がアジア諸国へ行くということも考えられます。

それから、重点実現項目「暮らしたい」「働きたい」「遊びたい」・・・魅力あるまちを目指すです。戦略方針としましては、にぎわいを創出するための柔軟なまちづくりの仕組みを開発すると。リーディングとしましては、新市シンボルとなる長岡駅周辺市街地の開発促進事業。

それから、戦略方針の市民参画による地域資源を活用した市民が愛着と誇りを持てる景観形成の仕組みづくりを行うというところでは、いわゆる市民参画による地域固有の景観の発見など、地域分析・研

究組織づくり事業を行うべきだということで、景観や歴史物など新たな地域価値を地域の人々が発見し、活用を促進する研究グループの組織化を行っていくということです。

以上、リーディングプロジェクトにつきましては、主なものをご説明をいたしましたけれども、小さな成功を少しずつ重ねて地域らしさ価値を高めると、それと同時に各地域の資源の強み、それを伸ばすことによって、いわゆる地域経営としての資源を強めていくというような性格のものでございます。

それから、56ページをごらんください。こちらは、生活基盤整備事業ということで、安心感に係る事業を統合して整理をしております。56ページの表にございますように、居住環境ではいわゆる区画整理、上下水道、住居、それから斎場・墓園、それから環境、それから57ページごらんいただきますと、上から道路整備、特に除雪とか融雪施設の整備改修も一つになって行っていきたいと思います。それから、福祉、それから産業基盤、農業基盤の整備、それから高度情報化推進を行っていく、それから教育、それから文化・スポーツという形で、それぞれまとめております。

それから、58ページをごらんください。こちらは、合併に伴い必要となる事業ということで、一体感の形成を図るものでございます。防災の充実と防犯の促進、それから情報化の促進、そして合併を契機とする取り組みとして合併記念事業の実施や、それから市町村間道路ネットワークの整備等も行っていくべきだという形でまとめております。

以上、簡単でございますけれども、説明を終わります。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。非常に具体的に内容が煮詰まってまいりましたので、これからいろいろご意見をいただきたいと思っております。

ちょっと前へ戻りますけれども、第3章につきましては、戦略方針といいますが、そういうことについてご議論いただいたわけでありますが、これはよろしいですね。もう一度確認をとりたいと思っておりますけれども、こういうことで戦略方針は小委員会では一応了承したというようにしたいと思っております。

それで、第4章に入りますけれども、戦略事業をベースにいたしまして、45ページ以降いろいろと内容が展開されております。それぞれの重点実現項目に対して戦略事業が何項目かここへ出ておりますけれども、この項目につきまして何かご意見ありましたらいただきたいと思っておりますけれども、これもよろしいでしょうか。かなり内容については精査、煮詰めていただいたものだと感じておりますけれども。

じゃ、後ほどまたご意見がありましたらいただきたいと思っておりますが、既にごらんいただいていると思っております。この第4章のリーディングプロジェクト、これが今日の一つの議題の中心になると思っておりますけれども、先ほど言いました重点項目を受けて戦略方針が立てられたと、その戦略方針に基づいてリーディングプロジェクトということで、ここに内容が具体的に記載されています。これは、少なくとも合併以後3年間ぐらいでこの事業を具体的に進めて、ある程度の姿形を市民の前にあらわさなきゃいけない事業だろうということになります。既に今までそれぞれの合併前の6市町村でやってきた事業等の内容をぜひ視点の中に落とし込んで、こういうプロジェクトをまとめていこうと、こういう新市としての新

しい施策の基本的な具体的な展開の方法論がここに記載されていると思います。

順番にちょっと目を通してご意見いただきたいと思いますが、49ページ、知的らしさの価値というのがございます。これは、「独創企業が生まれ育つ都市」ということになりますが、重点項目、それから戦略方針はこういうことでよろしいですが、その一番右側に書いてありますリーディングプロジェクト、これについてご意見等がありましたら、もう少しこういうふうに具体的な事例を挙げた方がいいんじゃないかとか、そういったご意見がありましたらぜひいただきたいと思います。

はい、お願いいたします。

委員（阿部誠一）

今言ったこととひっくり返して今日説明を受けた全体について、ちょっと一言よろしいでしょうか。

まず、第1点、生活基盤整備がナショナルミニマムという言葉になっておるのが、非常に違和感を感じるところでございます。ナショナルミニマムというのは、社会的に認められた必要最小限度と、こういうふうな考え方になるだろうと思うんですけども、生活基盤整備事業なんかを見てますと主要な施策内容から見れば、これは果たしてナショナルミニマムかという感じのものもあるだろうと思っております。特に道路なんかは、果たしてこれナショナルミニマムなのかなという印象を持っておりまして、私はどちらかというところとグレードアップとかレベルアップとか、そういう感じの事業じゃないかなという印象を持っております。

それから、戦略事業が書いてございます。戦略事業をこれ一つ一つ見ていくと、非常に事業の内容がはっきりわかるものがございます。一方、事業名を読んでもその事業の内容がわからないものがございます。したがって、これ一言見ればわかるような事業、例えば46ページの一番上の「生きる楽しみ」「育つ喜び」が実感できる生活環境の創出というところで見れば、例えばコミュニティセンター整備事業とか雨水貯留槽設置補助事業なんていうのは非常にわかりやすいんですけども、その上の市民行政共同運営によるコミュニティの育成・強化事業であるとか、市民参画のしくみによる各種マスタープランづくりの促進といったようなものが内容として具体的にどんなものなのかなというのがいまいちわからないものがございますので、ちょっとわからないものは一言入れていただいた方がいいのかなというふうに思っています。ただ、この中で、戦略事業の中でリーディングプロジェクトになっているものは後ほど説明が出てきますので、それはリーディングプロジェクトのところの説明されているので、それはそれでいいかなと思いますけれども、戦略事業見てもわからないし、リーディングプロジェクトにも説明がないものは、見てわからない事業について一言何か括弧書きでも入れておいて、一言触れておいていただければというふうに思っております。

それから、リーディングプロジェクトの中で、52ページを見ていただきたいんですけども、同じように52ページの「生きる楽しみ」「育つ喜び」が実感できる生活環境の創出の中の2番目、市民と行政の協働運営によるコミュニティの創出・育成を図るの中の市民行政協働運営によるコミュニティの育成・強化事業のところの三つ目の矢印に、コミュニティセンター整備事業の展開というのがございます。こ

れがリーディングプロジェクトの一つの項目になっているんですけども、その前の戦略事業の中に同じようにコミュニティセンター整備事業というのがあって、これが戦略事業にもなっておりますし、リーディングプロジェクトにもなっておりますんですけども、戦略事業、リーディングプロジェクトの項目は、そこに太字で書いてある市民行政協働運営によるコミュニティの育成・強化事業というのが戦略事業のその上の方にもありまして、コミュニティセンター事業は別な戦略事業になっておるとい形になっておりますんで、これどうも重複しているんじゃないかと、同じような意味でその下の健康づくり強化推進事業というものがございまして、この中の二つ目、屋内多目的コミュニティスポーツ施設整備事業、これもほかの戦略事業とどうもダブっているような感じがしておりますんで、ちょっと整理が必要なのかなという感じをしております。

それから、リーディングプロジェクトと戦略事業全体を見まして、私はどうも一番疑問に思うのは、なぜ道路事業がこの中に入らないのかというのが非常に疑問に思っております、それは生活基盤整備事業の中に全部入っておる、道路整備なんか入っておるわけなんですけども、よく考えてみますと新しい市になった場合、長岡市と旧市町村を結ぶ道路あるいは旧市町村間の連結を図るような道路なんかは当然戦略事業として取り上げてもいいような感じもしますし、リーディングプロジェクトになってもどうもよさそうなような感じがします。それから、県事業もあるわけなんで、県事業の要望の中でちょっと見てまいりましたら、例えば東西道路なんかが要望の中に入っておりますし、大手通の整備事業に関連して大手大橋の4車線化ですか、の要望なんかもありますんで、そういう道路事業は当然戦略事業とかリーディングプロジェクトになるんだろうなというふうに感じますんで、それに類する事業が道路事業の中にもあるのではないかなというふうに思っております、そうすると戦略事業とかリーディングプロジェクトの中になぜ道路整備事業が入ってきていないのか、これを非常に疑問に思うんで、この点どうなのかということをお聞きしたいというふうに思っておりますけども。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。全体ずっと見ていただきまして、いろんな何となく気になる項目につきまして、今ご意見をいただきましたけども、一番大きな道路事業についてはどういうふうに理解をしたらよろしいんでしょう。

事務局（竹見）

県の事業者の事業につきましては、これからまとめ方、59ページ第7章としてございますので、その辺につきましては整理をさせていただきたいなと思います。特に東西道路等は非常に大きな位置づけとしてされている道路でございますので、その辺はちょっと第7章の方で整理をさせていただきたいなと思います。

それから、ナショナルミニマム事業なんですけど、その中でも道路整備としてこちらに書いてございます。道路の整備となりますと、非常に時間のかかる事業ということで、今回の考え方の中では生活基盤整備事業といえますと、とにかく市民が健康で文化的な生活を伴うということで、基礎的な事業とい

うことになります。そうしますと、道路につきましても、基礎的な部分として道路が当然必要だろうという形でこちらの方に位置づけているものです。

それから、戦略事業の意味づけなんですけども、これ40ページの方に書いてございますように、市民と行政が一体となって進めていくべき事業だということで、戦略的事业の意味合いが少し道路のどっかいプロジェクトとはちょっと違った意味がありまして、道路と戦略事業の意味づけとしては、今区分をしております。

委員長（豊口 協）

ということでございますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

ということで、いろんなご意見が多々ございますので、ご意見を伺いながらまとめていきたいと思っておりますけれども、基本的に小委員会がやらなくちゃいけないことというのは、事前にもありましたように、市民と行政が一体になって自分たちのまちづくりをしていくためのプロジェクトというふうに考えていけばよろしいんじゃないかと思うんです。そういうことで、今までご意見をいただきまして、戦略事業等が整備をされてまいりました。今日ここに、先ほどもありましたように、リーディングプロジェクト、とにかくこれは3年間で具体的にこれだけはやりましようよと、一つのビジョンといいますか、約束事みたいなものでございます。それが49ページ以降にずっと記載されております。49ページ以降リーディングプロジェクトをごらんいただきまして、何か抜けているものがあるんじゃないかとか、こういうことはもう少しつけ加えた方がいいんじゃないかと、これは余分なことだから、これは少し4年後に回した方がいいんじゃないかとか、いろんなご意見があると思いますけれども、その辺を49ページからまず進めさせていただきたいと思います。

はい。

委員（鈴木隆三）

49ページ前に、48ページのこの表がよくわからないんですけども、戦略計画期間10年というんですね、戦略事業、また戦略事業が二つに分かれて、要するに戦略事業の中で3年間で結果を出せて、リーディングプロジェクトをやるという単純にそういうことだと思っておりますけども、余りにも複雑に書いてあって、その下の例えば生活基盤整備事業二つののが一つになって、また二つに分かれるみたいな、この下の合併に伴う必要事業も似たような表になってはいますが、これはちょっとどういう意味なのか理解できなかったんですが。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。わかりやすくもう一度説明をお願いします。

コンサルタント（牛来）

では、ご説明させていただきます。

このフローは、建設計画書でどういうふうな事業が出てくるかというのを説明しているフローでして、

左側から将来構想の実現ということで、地域らしさ価値重点実現項目というのを将来構想では策定してまいりました。そこから戦略事業というものを戦略方針に基づいて出しているんですが、特に右側の点線で囲ってある枠内の小さな四角の数とかそういうものは関係ございません。ここで言いたかったのは、一番下のところに点線で書いてありますが、今回の長岡地域の建設計画書では三つの大きな根幹事業の考え方を持っていると、それが戦略事業であって、生活基盤整備事業であって、もう一つが合併に伴い必要となる事業ということで、それぞれ重要性の序列はないというようなことをちょっとこのフローで申し上げたかったということなんです。特に戦略事業については、先ほど事務局からもありましたように、3年間で要は新市民が新市になったことを実感できるというものは、まずやっていってみよう、小さいものから一つずつ成功をさせていって新市全体で一体感を醸成していこうというような、そういう考え方でリーディングプロジェクトを今回は選びましたというような説明のフローです。ちょっと今ご指摘がありましたので、このフローはもう少しわかりやすくしたいと思いますが、上の方に戦略事業三つ縦に並んで、その後六つ並んでとなっていますが、この並びとかは今のところ個数とかそういうものは全く関係のないところで、大きくは戦略事業と生活基盤整備事業と合併に伴う事業が今回の建設計画書には出ていますよと、その中の戦略事業にはリーディングプロジェクトというものを設定しましたといったような、そういった説明のフローになっていますので、もう少しそのあたりわかりやすく今後整理したいと思っております。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。確かに非常にわかりにくくレイアウトされておりまして、同じレベルと言っているかわかりませんが、もう少しこれ2ページぐらいに広げて書いていただいた方がわかりやすかったんじゃないかと思えます。

よろしいですか。

委員（鈴木隆三）

はい、どうも済みませんでした。ありがとうございました。

委員長（豊口 協）

それじゃ、全体の構図といいますか、構造をご理解いただいたものと判断いたしますが、まず3年間でとにかくやってしまおうよと、やってくださいよと、やりましょうよという、そのプロジェクト、それが、リーディングプロジェクトですけれども。

はい、お願いいたします。

委員（小疇弘一）

前回も行政の対応力の強化とか高度化というのは非常に大事だという中で、これまでの縦割りから少し横につながった縦系と横系がうまく組み合わさるようなことが必要なんじゃないかというお話をしましたが、今回の重点実現項目戦略方針リーディングプロジェクトと流れてしまうと、ますます細かく縦割りに割られてしまうんじゃないかという感じがあって、一つ一つのプロジェクト、私非常にいいと思

いますが、戦略方針からリーディングプロジェクトに移る段階で、戦略方針同士のちょっと横系的な検討があっという間じゃないかという感じがしています。具体的には、例えば41ページ、42ページのところに戦略方針というのがたくさん並んでおりまして、一つ一つはすばらしいことだと思っておりますが、例えば42ページの世界をつなぐ和らぎ交流都市の地域資源を活用した新ながおかコンベンション・シティの創設と、戦略方針の2で民間活力や様々な人材を活かしたコンベンションの仕組みを強化するというのがありますが、例えばこれなんかは左側の41ページの一番上の行政が関連団体とのコーディネート役を担い、「技術」「人材」等のネットワークを構築すると非常に深いつながりがあると思えますし、それから元気に満ちた米産地の真ん中の地元食材を活用した長岡でしか味わえない新しい郷土料理や健康メニュー、特産品の開発を行うとか、あるいはその一番下の景観保全活動の仕組みづくりを行うとか、それから42ページの世代がつながるの中の「未来人」育成・発信地域の若年層の豊かな発想を社会に反映させる仕組みづくりを行うと、こういうのが非常にみんな絡み合っただけで初めてコンベンションの仕組みが強化されるんだというふうに考えますと、一たん戦略方針同士のつながりを、繰り返しになりますが、つながりを求めて、そこからリーディングプロジェクトが出てきたという形にするとかなり落ちがなく、さらには新しい視点でのリーディングプロジェクトが出てくるんじゃないかと、ほとんど同じかもしれませんが、そういう組み立ての中で考えたということが、一つ前段としては必要じゃないかと。

そうすると48ページの今度リーディングプロジェクトとは何かという説明がありますが、戦略事業の中でも早期に着手可能かつ着手すべきものであり、新市発足後3年程度の間で成功が見込まれる事業をリーディングプロジェクトと呼ぶと、さらに小さくとも確実な成功を積み重ねるとありますが、リーディングプロジェクトはこれだけじゃなくて、さらにその一つやることによって効果が多岐にわたるということもとても重要じゃないかと思っております。そうするとやっぱり戦略方針同士で新しい視点で戦略方針をうまく絡めて、そこからリーディングプロジェクトが出てきましたという、その組み立てがどうも必要じゃないかと、そうしないとこれはこういうものを一たん決めた後で、さらにそういうことの連携を考えましょうということであれば、例えばそういう記述が必要じゃないかと、そんなふうに思いますけど。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。非常に実際に展開する場合のネットワークと申しますか、組織運営と申しますか、そういうもののご指摘だろうと思っておりますけれども、その辺はどういうふうにとらえたらよろしいですか。

事務局（竹見）

これ事業計画ですんで、実際の実施計画のときには今のご指摘のようにこの事業とこの事業をやっぱり組み合わせさせてやっていこうとか、そういったものを当然整理しながら実施に入っていくということになると思います。ですので、まずこのリーディングを一つ一つ今日ご確認させていただいた中で、実施のときにはそういう考えも入れていくということ本文の中に入れていただければと思うんですけども。

委員長（豊口 協）

それともう一つ、こういうリーディングプロジェクトがこの小委員会で確認された後、新しい市が生まれた場合にこの内容を新しい市の行政機関がいろいろ検討しながら、どのプロジェクトとどのプロジェクトをどういうふうに結びつけてどこでやったらいいかという、その具体的な展開はそれ以降恐らく行われるだろうという気がするんですね。今ここでやっていますのは、こういう項目については、これはとにかくやりたいよと、やろうよと、じゃそれを具体化するためにはどうしたらいいかということは、新しい市の行政母体が考えるんだと、こういうことになっていくんだらうと思うんです。この小委員会としては、新しい新市の行政母体がどういう組織でどういう担当者がいてどういうことをどこでやるんだということまでは踏み込んでいけないわけでありますから、とにかく新しい市のプロジェクトとしてこういう内容のものはより早く具体化してほしいと、これは市民の声であるということを確認して新市にそれを提案、提言していくということになるんだらうと思いますけれども。

委員（小疇弘一）

ただ、これがこのまま出ていきますと、リーディングプロジェクトごとに担当が決まって、これまでと全く同じやり方で個別にやっていくんじゃないかという考えがあって、それで今のようなお話であれば、こういうものがやっぱり組み合わせられた形で横軸がうまく組み立てられて進められる、それが対応力の強化とか高度化に非常に重要につながるんだという記述はぜひ大事なんで入れていただきたいというように思います。

委員長（豊口 協）

おっしゃるとおりだと思います。ですから、とにかくこの期待は、よりどういう組織構造の中でこれが行われるかということについては、小委員会としては大きな期待があるんだと、市民としても大きな期待があるんだと、そういうことははっきり明記した方がいいだろうという気はいたします。ありがとうございました。

ほかにございませんか。何ページでも結構ですが、第4章のリーディングプロジェクトにつきましてお願いします。

はい。

委員（鯉江康正）

今ほどの説明で、これは事業計画で、それをブレイクダウンした実施計画があるんだということですので、それはそういうふうに解釈すればいいのかなという気もしないでもないんですが、ただちょっと気になるのはこれハードの整備なのかソフトの整備なのか非常に不明確な部分が内容であると思うんです。ある人を見ると、何かハードをつくるんだとか、そういう施設をつくるんだな、準備してくれるんだなというふうに解釈してしまう部分と、別の人を見ると、いや、そういうようなものをソフト的に用意するんだよというふうに解釈できてしまう部分があるんで、その辺はちょっと誤解をされないようにしておく必要があるのかなという感じがします。

それと、もう一つは、それぞれのリーディングプロジェクトをやったときのターゲットはどこにあるのかなと、どういう人たちが意図してこういうプロジェクトをやるのかというところがある程度明確になっていないと、何か物は用意しましたが、じゃ誰が使いに来るんだらうと、実際誰も使いに来なかったということになってしまいそうなので、その辺が明確になれば実施計画ではもっと具体的になると思うんです。だから、そこがちょっと抜け落ちているかなという感じです。

それと、非常に細かい話で申しわけないんですが、最初から気になってしょうがないのが、49ページでもいいんですが、戦略方針の一番最初で、行政が関連団体とのコーディネートを担いというふうにあるんですが、これはどこどこのコーディネートをやるのかなという、行政が。関連団体と関連団体のコーディネートをやるのか、いわゆる市民と関連団体のコーディネートをやるのか、何かその辺がちょっと明確じゃないんで、コーディネートするということは何かと何かだと思うんですね。ですから、そこもちょっと気になってしょうがなかったというのが1点です。

非常に細かい話で申しわけございませんが、51ページのところのリーディングプロジェクトの五つ目なんですが、女性パワーを生かしたアグリビジネス創出支援事業と書いてありますが、これ女性パワーでなきゃいけないんですかね。男性パワーでもいいような気が、だから男女共同参画社会といったときに、女性を出すことが男女共同参画なのか、そんな男性も女性もなくて、これジェンダーなんだというふうに考えるのかというのは、やっぱり一つ議論をされた方がいいような気がします。特に今アメリカでご存じのように逆に女性サービスデーは逆性差だということが問題になっているように、やっぱり私なんかでもふだん学生なんか見ていると女であることにあぐらをかいてすごく甘え放題にしている学生が結構いますから、それが本当に男女共同参画社会なのかなというところまで甚だ疑問があるところでして、どうもこういうふうに言っちゃっていいのかなというところがちょっと気にはなるところでした。そういう印象があります。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。私の理解している、今ご意見、ご質問が幾つかありましたけども、この数年間ずっと意識している、感じているのは、ここへ出てきているリーディングプロジェクトというのは実は委員会が決めているものではないんです。これは、今まで、かつては8市町村、今は6市町村です。市民のワーキングショップで、市民がこうしてほしい、こうするんだと言ってきた意見がここに集約されてきている。それをどういう組織でやるかということに関しては、これは次の行政に頼むよという形になっています。ですから、その次の内容でソフトかハードかということの場合も、建物をつくってやるんだからというふうな言い方をここでやるのではなくて、かつて市民たちからの要望の中で、チームの中でも毎回4時間から5時間で15回やったという、7チームがあったというその大変な作業の中からこういうふうなことをぜひ新しい市の中でやってほしいと、これを具体化してほしいんだという希望がありました。それをどういうふうな形で具体化するかはこれからの行政の手腕ですけども、そういったものがここにまとめられているというふうに私は理解をして、実はこの書類を見ているんです。ですか

ら、関連団体を市が、行政がどうするのか、これは行政は今まで8市町村ないしは6市町村の中でやってきたいろんな組織ありますので、その人たちにお互いに手と手をつなぎ合ってやってくださいよというふうな、やっぱり機会、チャンス等をつくり上げていくような行政の体質が生まれてくる必要があるんだろうなという気はしているんです。ただ、これはいろいろ皆さん方の今までのデータ、その他をごらんいただいてどう感じられるか、かえってマイナス、誤解をされるようなケースが出てきますと非常にまずいですから、できるだけわかりやすく整理をする必要があるだろうという気はします。

それから、女性パワーと特に書く必要はないんじゃないかと、これは私も確かにそういう気はいたします。このごろ女性だからこうだと言うと、途端にかみつかれたりしまして、非常に辛い場合、先生の年齢ならしょうがないですなんて言われたりするんで、がくっとくるんですけども、これはちょっと気をつけなきゃいけない今の時代の言葉だろうという気はいたします。ありがとうございました。

ということで、私は感じているんですが、事務局、どうでしょう。

事務局（竹見）

整理をさせていただきます。

委員長（豊口 協）

ご意見を内容をここへ入れまして、さらに精査をしていきたいという事務局の意見でございます。よろしくお願ひしたいと思います。

どうもありがとうございました。

はい。

委員（大地正幸）

大体語り尽くされたかなという感じもするんですが、リーディングプロジェクトですから、その先に新政府が行うことだというふうなことなんでしょうけど、それにしても例えば52ページの健康づくり強化・推進事業、屋内の多目的コミュニティスポーツの施設整備事業というのが書かれているわけです。そうすると、これ3年ぐらいで仮に方向性を決めるのか、それともそれを実際にできるのか、この類のものは一体、簡単に言えば例えばの話ですけど、小学校とか中学校を開放すればやるよという程度のものなのか、それともやはり各地域にそれぞれ新しい施設なりニーズに応じて対応していこうという基本的な方向をここで定めているということなのか。ただこういうふうに書かれていて、その先はまたこの次ですよというようなことではないのかな、リーディングプロジェクトと言っている限りにおいては、どうもその辺もう少し方向性、先ほど鯉江先生も言われたようにソフトなのかハードなのか、その辺がもうちょっとやはり考え方を整理されないといけないかな、それは同じようにコミュニティセンターなんかもそうだろうなというふうに思うんです。これは、現在長岡市の制度ですけど、この辺をどうしようというふうに考えているのか、その辺についてもちょっとこういう形で提案していけるのかなという疑問があります。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。確かにハード、ソフトの問題というのは、ここでは見えてこないところありますので、はっきりさせておく必要があると思います。先ほど阿部委員の方からもご意見いただきましたコミュニティセンター整備事業というのは一体何なのかというふうなご意見もございましたので、今のコミュニティスポーツセンター施設の件は、これはいかがですか、事務局としては、どういうふうな解釈をしたらいいか。

事務局（竹見）

今整理させていただいているのは、ソフトとかハードとか、そういう区分というか、そういったのはしていないんです。まず、リーディングとして、まずは市民と行政が一体となって高めていくということですので、例えば市民活動が活発であるとか、既に体制が整っているとか、そういったものであればそれに伴ってどうしても何か目的を達成するためにそういう設備が必要だとかいうことであれば、やっぱり早急にしなくちゃいけないという部分があると思います。ただ、まだ市民活動とか、それから地域の資源がまだまだこれから伸ばしていく必要があるということであれば、もう少し時間をかけながら必要に応じて整備していくとか、そういう形で今つくっておりますんで、特に今ソフト、ハードという区別はしていないです。

委員長（豊口 協）

わかりました。ということなのですが、実は3年という何か数字がぶら下がっているものですから、これは恐らく委員の方々もこの点は非常に心配をされておられるんだろうと思うんですけども、この辺も含めて次どういうふうにするか、予算がこの後だんだん具体的に姿あらわしてくるわけでありまして、その辺と絡み合わせて、さらに計画書というのはいろいろ検討を加えていくということと考えてよろしいですか。

事務局（竹見）

そのとおりです。

委員長（豊口 協）

ということですが、委員の方々いかがでしょう。よろしいですか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、時間もあれですが、今第4章ずっと最後までごらんいただきまして、こういうリーディングプロジェクトが今整理されてきたんですよというふうにご理解をいただきたいと思います。

第5章は、10年間の中で具体化を図る、とにかく最低やってほしい項目なんです。今まで各6市町村で続けてやってこられた事業ですけれども、これをとにかく早急に具体的な事業として進めてほしいというのが生活基盤整備でございます。これは、ナショナルミニマムかどうかというご意見につきまして、先ほど阿部委員の方からもご質問がありましたけれども、生活基盤をちゃんとするということは、これは

必要なことです。そういう意味で、道路問題、将来国、県との関係もありますけれども、それを前提としまして、ここに書いてあります居住環境の問題、それから道路整備、福祉、産業基盤、教育、文化・スポーツというふうに分けられておりますけど、この辺はいかがでございましょう。

これは、さらに今度具体的な内容が整備されてくると思いますけど。よろしいですか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

次の58ページ、第6章でございます。これは、合併に伴ったら必ずやってよという、そういうことなんですけども、特に各6市町村でシステムの違っているものがたくさんございます。防災無線の問題も含め、恐らくコンピューターも違っているだろうと私思うんですけども、そういったものは合併で直に整備事業としてやらなくちゃいけないだろうということになっております。特に1番目の防災の充実と防犯の促進、この辺は新しい市民として本当に安心して住める環境整備としてこれは必要だろうと思います。どうぞ、ご意見をいただければと思います。

はい。

委員（今泉 實）

今論議されている、提案されている問題は、いずれにいたしましても4章、それから5章、6章というのは構想に基づいた、また今までのやってこられたものが具体的に上がってくるものと、いわゆる整合性がある構想に結びつくという問題でありますので、今の項目見ればいろんな面で重複の面があるかと思いますが、これはこれでいいんじゃないですか、と思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。実際今まで6市町村長い歴史の上に成り立っているわけでありまして、その歴史の上にいろんな文化をつくり上げてきておりまして、そういったそれぞれ個性のある今までの蓄積があるわけでありまして、それを新しい市の中でお互いに手を取り合って新しい文化としてさらに構築していこうと、こういう非常に難しい状態の中に入っているわけです。共通の言葉といいますか、共通の思想といいますか、そういうものをこれから市民の方にも持っていただき、つくっていただかなきゃいけないだろうというふうな気がしております。どうもありがとうございました。

ほかにご意見ございませんか。

はい。

委員（野田幹男）

今も話がありましたように、4章、5章、6章、これみんな重要な案件ですけども、我々の建設小委員会とすればこの程度で前へ出ていくわけなんですか、今事務局がお考えのことは。今日の説明程度で今度は7章、8章へ入っていくと、あとは先ほどもお話ございましたようにハードかソフトか、あるいは年次をどうするかというようなものについては、もう執行部一任のような形で、事務局一任のよう

な形で、我々の委員会とすればこのまま前へ出ていくという状況になるのでしょうか、どうですか。

委員長（豊口 協）

事務局、いかがですか。

事務局（竹見）

このままとおっしゃるのは、もう少し詳しくお話しいただきたいんですけど。

委員（野田幹男）

これで一件着落のような形で、次なる計画の方に委員会とすれば入っていくわけですか。

委員（五十嵐 徹）

ちょっと、じゃ関連しますんで、今うちの野田委員がおっしゃっている中身は、これに事業費がぶら下がって全体的にじゃこれが本当のリーディングで3年の中でいわゆる玉出しをして本当にいかれるのかどうか、そこまでこの小委員会が見届けた上でいくのか、この項目だけで財政は切り離してこれで終わってしまうのか、この辺をお話しされている趣旨だと思いますから。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それは事務局の方からお答えいただきたいと思います。

事務局（竹見）

個々の事業について事業費をここに登載するというのは、今回はできないと思います。と申しますのも、これ建設計画でございますので、これを例えば事業費を個々に上げた場合、例えばその事業費に逆に変わったりした場合にこれそのものが変更の要件になります。ですんで、ほかの協議会さんとか見ても本文の中に個別の事業費がのっているというのはないですし、建設計画そのものがそういったつくり方をするものじゃないというふうに考えています。

委員長（豊口 協）

今の事務局の答えですが、いかがですか。

委員（五十嵐 徹）

ここへ載っている項目をすべてリーディングとしてとらえてソフト、ハードにみんな分類するんですが、これが本当に小委員会で検討して全部できるんですよと、帰ってそれぞれの議会なり行政関係者に説明していいのかどうかというのがまず一つございます。ここへ載ったけども、これはここで夢なんだと、いわゆる、現実の財政をぶつけて事業費と照らし合わせてどこまでできるかは、小委員会ではそれはわからないという程度でおっ放してしまうのか、この辺の責任の持ち方がどうなのかというのが、それぞれ委員の皆さんがお帰りになってからどの程度までの話でできるのかというのが一つだと思いますし、またここで決まってしまうばこのリーディングの中の細かい細かい字ですね、太字じゃなくて、細かい字の中でもある程度のこういうものがこの後追加なり変更なりができるのかどうかと、この2点について。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。非常に重要なポイントですが。

事務局（竹見）

リーディングプロジェクトなんですけど、48ページをごらんになっていただきたいんですけども、その上から3行目、建設計画の登載事業はどれも新市建設にとって有益な事業であると、どれが重要かといった比較や判断はもっと本来時間をかけて行う必要があるんですけども、少なくともそのすべてを同時に実行することはできないと考えます。そのため、戦略事業の中でも早期に着手可能かつ着手すべきものであると、新市発足後3年程度の間には成果を見込める事業ということで、リーディングプロジェクトとして設定しているものです。ですんで、すべてができるとかできないとか、そういったものでなくて、こういうことに取り組んでいきましょうと、そういった性格のものとして考えています。

ちょっとまだ不足でしょうか。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（今泉 實）

今説明があったわけでありまして。確におっしゃることはわからんわけでもないんだけど、例えばこの後と、いわゆる登載されてくるプロジェクトの問題があるわけです。そうしたときに、今例えば10年間のスパンの中で極めて3年間の中で市民にアピールをしていくわけでありまして、登載の例えば3年間の中ではこれとこれとこれができるんだよというような程度の、程度という言い方恐縮なんですけど、そういうものがわかってこないと、つまり我々小委員会として了承しても、協議会でそれを受け入れられるかどうか、そういう問題がこれから発生してくるんじゃないですか。それは、我々はこうした中で協議会を経た中でそれぞれの市町村に報告していかなきゃならない、説明をしていかなきゃならないという問題、だからこうした非常にすばらしい構想があって、その実現可能なものは何かと、そうした中にさっきもお話が幾つか出ているようにハード、ソフトという分類の中で、この項目がいわゆるリーディングプロジェクトの一つの駒なんだよというものがある程度具体的なものが出てこない、住民に対して説明不足になってくるんじゃないかなと、その辺がまた行政と我々がかみ合わない面が、市民とかみ合わない面が発生するんじゃないかなというような気がしてならないんです、その点どうですか。

委員長（豊口 協）

わかりました。

事務局、いかがですか、今のご意見に対して。お願いします。

事務局（北谷）

今幾つかご意見いただいておりますけども、リーディングプロジェクトというのは、だから少なくとも合併当時、今年の秋ぐらいには計画書が完成するわけですけども、その時点で少なくとも合併後3年間の間に成果を上げると、上げようという決意をした事業です。ですから、ある事業については順調に

着工できて、ハードでいえばその施設も完成するものもあるでしょう、建設途中のものもあるでしょう、あるいはある事業においては住民の機運がまだ高まってきていないので、まずソフトを先行して3年間で過ぎてしまったというものもあるかもしれません。ただ少なくとも今年の秋の段階では、新市になったらこれを3年間でとにかくやるんだという決意をした事業であるということをご理解いただきたいと思います。

また今後、別途我々詳細も詰めている財政計画もありますし、今後首長会議等もあります。今の今日のこの時点よりも具体的に書ける段階になったものについては、具体的に書いていくということでありますので、今日の時点の事業の書き方ですべてが終わるというものではないということをご理解いただきたいと思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。という事務局の意見ですが。

委員（今泉 實）

はい、それはわかりました。今日の時点では、これでいいと思います。

委員長（豊口 協）

ほかの委員の方よろしいですか。

はい。

委員（野田幹男）

今理事が言われるように、非常に歯切れはいいんです。我々は、今度地元へ帰れば、地域へ帰れば助役さんなり私が説明の矢面へ立つわけですから、事務局の皆さんは慎重を期して出過ぎないように、非常にオブラートに包んだような感じで慎重を期しておられますけれども、我々も今度地元へ帰ってわかったようなわからんような話はしていられないわけですので、それは今すぐ云々ということではありませんけれども、一つ一つ段階を踏む中で、今理事が言われるようなそういう形でひとつ仕上げてもらえばありがたいというふうに考えております。よろしくお願いします。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。ご意見としていただいております。

ほかにございませんか。

はい。

委員（高野徳義）

第5章のところで、いろいろあるんですが、これはこの後またいろんな細かいのは説明で出てくるんでしょうか。リーディングプロジェクトの中にも入っていなかったり、あるいは住民からこういうのはどうなるんだ、ああいうのはどうなるんだといろいろあるんですが、それはこの第5章の中へ入っているような感じなんです、いろいろ細かく分野別にこれから出してくるんでしょうか。

委員長（豊口 協）

この概要をさらに詰めて具体的な姿が見えてくるとと思いますが、事務局いかがですか。

事務局（高橋）

できるだけわかりやすく整理をしたいと考えております。

委員長（豊口 協）

基本的に市民の方々がこれごらんになって、自分でイメージが浮かぶようなやっぱり内容にならないとまずいなという気は私は個人的にはしておりますけれども。

ほかにご意見ございませんか。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。本当に多岐的にいろんなご意見いただきましてありがとうございます。この建設計画の素案でございますけれども、こういうペーパープランというのは、ペーパープランじゃなくて具体的なプランがあるんですけども、紙上にこういうふうに表現するというのは非常に難しい点がございます。言葉に対する理解もそれぞれの方々の理解の仕方が違うという点もございまして、さらに市民にブレイクダウンした場合に市民の方がどういう理解をされるかというのは、これは非常に難しい問題があると思うんですけども、その辺は事務局の方で精査をしていただいて、より正確な情報が伝わる、正確なプロジェクトが見えてくる、正確な計画が頭の中に具体的なイメージとしてまとめ上げられるというふうな計画書にぜひしたいというふうに委員長としては考えております。そういう点でひとつご協力をいただきたいと思いますと思っております。

あと事務局から何かその他のことはよろしいですか。

事務局（竹見）

今後の話なんですけど、一応戦略方針、戦略事業と、それから生活基盤整備事業、そして合併に伴い必要となる事業のいわゆる骨格といいますか、そういったものを本日ご承認していただいたということであれば、これを持って県の方と事前協議の方にちょっと入っていきなというふうに考えております。それでよろしいでしょうか。

委員長（豊口 協）

県の方との打ち合わせに入りたいと、こういうことでございますけれども、よろしいでしょうか。よりいろんなご指摘がここから出てくるとは思いますけど。

事務局（竹見）

まだ細かい点はこれから直していく部分ありますけれども、概要的な形でもすべて網羅されておりますので、いかがでしょうか。

委員長（豊口 協）

よろしいですか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。じゃ、そういうことでよろしくをお願いします。

事務局（竹見）

それから、次回の小委員会なんですけど、7月8日に協議会がございますけども、その前に一回またお願いしたいと思います。また追ってご連絡差し上げますので、よろしくお願いいたします。

委員長（豊口 協）

7月8日前です。よろしくひとつお願いいたします。

だんだんこれから夏が近づきまして暑くなりますんで、ご意見等もホットなご意見が出てくると思いますけども、ひとつよろしくお願いいたします。

今日はどうも本当にありがとうございました。

何か、副委員長。

副委員長（二澤和夫）

ありません。

委員長（豊口 協）

それじゃ、これで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

（散会 午後5時55分）